



神奈中情報通信



(株)神奈中情報システム TEL:0463-22-8804 FAX:0463-22-8815

■■この「神奈中情報通信」は、私たちと何かのご縁があったかたにのみ、差し上げている通信誌です。■■

◆映画『チクソクの夏』をきっかけにして…◆

こんにちは！お世話になっております。神奈中情報システムの米山です。今回は私が担当です。よろしくお願いいたします。



さて、コロナウイルスの影響が続き、今年は夏の様々なイベントが全国で中止になっています。私たちの地元平塚は、七夕祭りが有名ですが、今年は中止となり、寂しい夏の始まりとなってしまいました。

今回は、この七夕に関連するエピソードです。3月末、残念ながら故人となってしまいました、義理の兄である佐々部清監督の作品のひとつに、『チクソクの夏』という映画があります。監督のデビュー作は、上映された順番の関係で『陽はまた昇る』となっていますが、監督として映画を作り始めた順番から言うと、『チクソクの夏』が先で、佐々部本人の中では、『チクソクの夏』が一作目ということになっていました。

2003年に佐々部の地元下関で上映され、2004年に全国で公開されました。チクソクというのは韓国語で七夕を意味します。姉妹都市である下関と釜山が、かつて年1回夏に開催していた関釜陸上競技大会。この大会に参加した下関の4人の女子高校生の一年を、その一人に芽生えた淡い恋を軸に描いた作品です。

そして、実はこの作品がきっかけとなり、佐々部清監督を応援する団体が作られることになり、今でもその活動が続いているのです。

2004年、全国で公開された『チクソクの夏』。東京でこの映画を見た下関出身の男性が複数名いました。彼らは知り合い同士でもなんでもなく、年代も違う、職業も違う人たちで、当然ながら、別々の劇場でこの映画を見ていました。共通していた



のは、映画に感動し、エンドロールにあった監督脚本の佐々部清という人物に興味を持ち、その後、惚れ込んでいったこと。

翌年から毎年、下関では4、5年にわたり七夕の日に、『チクソクの夏』の上映会が催され、監督も毎年招かれていま (2枚目へ→)

(続き→) した。そこに、東京で映画を見て佐々部清監督に興味を持った下関出身の数名が、個々に応援がてら足を運び、また、『チクソクの夏』のロケ地を巡るなどをしていたところ、その活動がまず下関で話題となりました。そして、佐々部が所属していたシネムーブという会社のプロデューサーである臼井さんの耳に入り、それが監督にも伝わり、そこから交流がスタートしました。

その後、個々人で応援していた人たちは「劇団巖流 第二級」という団体を作りました。巖流というのは、下関の巖流焼きというお菓子から取っており、第二級というのは、謙虚な意味で、自分たちは一級ではないということで付けられたそうです。

団体と言いましても、堅苦しいものではなく、監督を個人的に応援する者の集まりということで、主に、監督の映画のレギュラーエキストラとして活動をしてくださっていました。『チクソクの夏』がきっかけとなって集まった数名の団体は、今では30人くらいになっているようです。

そして、この方たちが、毎年、七夕の頃に『チクソクの集い』というものを行っていました。今年はまだ佐々部が故人になってしまったのですが、プロデューサーの臼井さんが、緊急事態宣言も解除され、事務所を開放するので、換気も万全にして、佐々部さんの思い出話をしましょうと、私にも声を掛けてくれました。

7月4日(土)の午後2時、プロデューサーの事務所に10人くらいが集まり、それぞれ一人ずつ、佐々部との出会いのきっかけや、エキストラに出演したときのエピソードなどを含めた思い出話をして、大いに盛り上がり、気がつけば夜9時になっていました。話が尽きない状況ではあったのですが、遠方から来られる方もいたので、9時半には解散しました。

今回、私は初めてお会いする人ばかりでした。新たな出会いを天国の佐々部からいただき、また、佐々部の人柄が、ここまでいろんな人々に影響を与えていることに、改めて、本当にすごいなあと、実感いたしました。

■この通信がご不要の方は1枚目をそのままFAXしてくださいませようよろしくお願いいたします■

【発行元】

バス事業者、旅客・貨物輸送事業者が求めるシステムの構築から運用までをサポート！

株式会社神奈中情報システム

〒254-0034 神奈川県平塚市宝町3番1号

平塚 MNビル11階

TEL: 0463-22-8804 FAX: 0463-22-8815

発行責任者: 神奈中情報システム

株式会社
神奈中情報システム



大森



米山